

令和4年度 4歳児 「野菜の栽培」

(実践前修正箇所を斜体、実践後修正箇所を囲み文字にて示す。)

1. 期間 4月～9月及び9月～3月

2. 設定の理由

3歳では担任が育てている野菜を子どもたち達は折に触れて見ている。そして、野菜が育っていく様子を見て驚いたり喜んだりしてきている。なかには担任が野菜の世話をしている様子を見たり、一緒に水やりをしたりした子どももいる。そして、収穫ができる時期になると、収穫した野菜をもらって帰り、身近な場所で育った野菜を食べることを楽しむ経験をしてきている。また、年間を通して色々な野菜を4歳児と5歳児が自分たちで育てている姿を目にしている。

このような経験をしているため、4歳になると学年に大きな畑があり、そこで自分達で野菜を栽培し、収穫するという経験をするに期待を感じている。野菜の食べる部分についてはどのような形、色をしているのか分かっていても、収穫までにどのような過程を経ているのかについては知らない子どもたちも多い。

また、3歳児の時に比べて友達と関わりが増え、一緒に遊ぶ楽しさや、協力して物事を進める充実感も感じられるようになってきている。

そこで、4歳児では選択肢の中から育てたい野菜を選び、グループで栽培活動に取り組んでいく。クラスや学年の友達と同じ野菜を育てることで、仲間意識をもつようになる。野菜を育てるなかで、どんな世話が必要か考えたり、教師や保護者に教えてもらったりして、やってみようとする子どももいる。野菜の世話をする姿や、生長への気付きをクラスや学年で共有することで、他の友達や、他の野菜にも興味・関心をもつようになる。

このように、野菜の栽培を通して、4歳児においては、生き物の生長に関心をもったり、友達と一緒に力を合わせたり、共に喜びを味わったりする経験をしてほしいと考える。

野菜を選ぶ際に大切にしたいこと

- ・簡単に育てられる年少時に教師と栽培したり栽培しているのを見たりした野菜で、自分達で栽培を進めやすいもの
- ・たくさんの実がなり、全員持ち帰れることができ、分ける経験ができるもの
- ・季節による変化を感じられる(収穫後に花が咲く)もの
- ・苗植え、種植えなど違いを感じられどちらも経験できるもの
- ・野菜が実る場所がさまざまななり方が異なるもの(根菜、葉野菜、果実など)

R4年度

夏：ミニトマト、ピーマン、ナス(全て苗)

冬：ダイコン、ニンジン、ブロッコリー、ホウレンソウ(全て種)

3. わらい

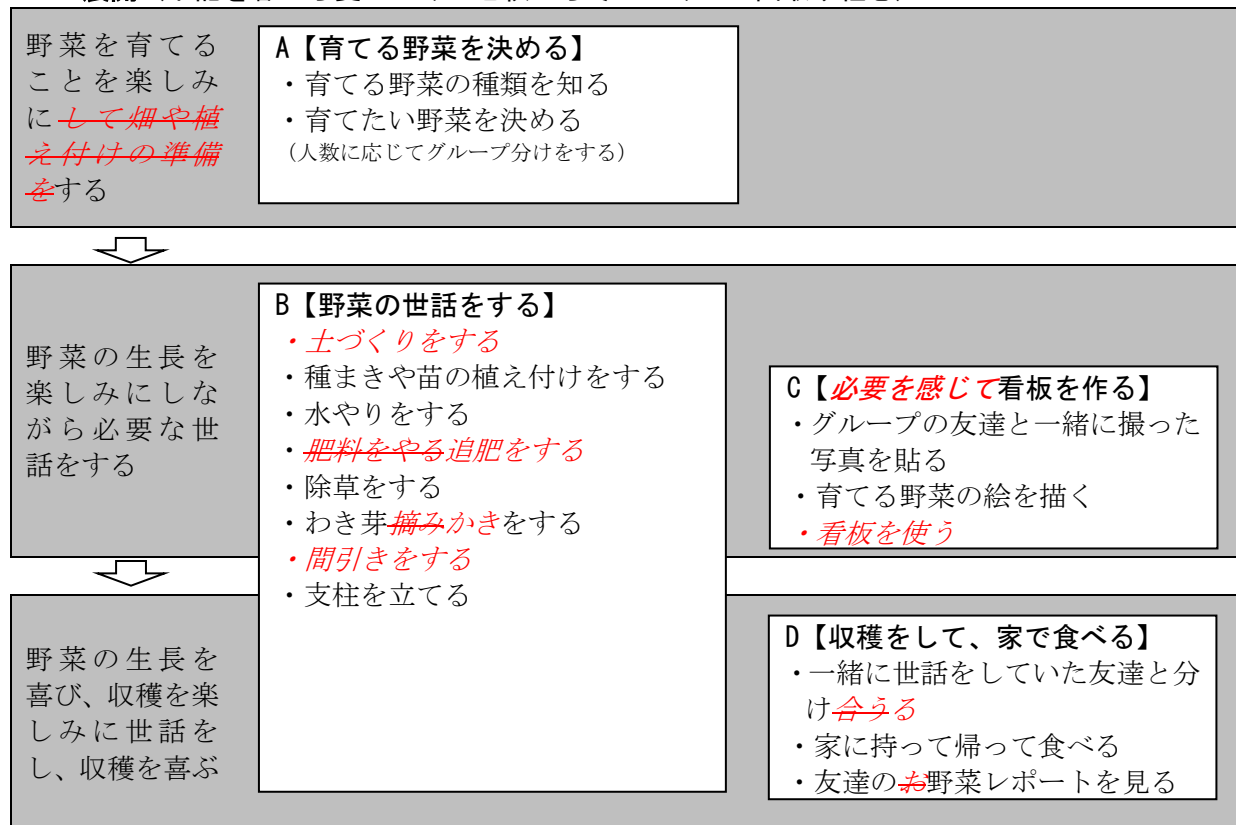
- | | |
|--|--------------|
| ① 自分の育てたい野菜を自分で選び、期待と愛着をもって世話をしようとする | 自ら決める・選ぶ |
| ② 自分たちで世話をしたことで野菜が生長し、収穫できることを嬉しく思う | 自分に満足する |
| ③ 友達と一緒に世話をしたり、野菜の変化を伝え合ったり、収穫したりすることを楽しむ | 他者という喜びを感じる |
| ④ 同じ野菜を育てる友達と声を掛け合って世話をしたり、みんなで納得して持ち帰れるように相談して誰が持ち帰るか決めたりしようとする | 人とのことをすすめる |
| ⑤ 野菜の生長に関心を持ち、変化に気付いて必要な世話をしようとする | 生き物・いのちをみつめる |
| ⑥ こんな野菜を収穫しに育てたいという思いを野菜の絵で表現しようとするを描いたり、自分たちだけの看板を作ったりすることを楽しむ | 造形にあらわす |

- ⑦ 食べることを楽しみにして野菜を育て、収穫した野菜を家庭で食べて喜んだり、友達がどのようにして食べているのかを知って食べ方に興味をもったりする。
- ⑧ 育てている野菜やメンバーがわかるようにしたいと思って看板を作ろうとしたり、看板を置くことで過ごしやすさを感じたりするや、お野菜レポートを見て、自分たちの畑や野菜に愛着をもったり、友達が育てている野菜やどのようにして食べたかを知ったりする。

食をみつめる

（メディア）
どの資質・能力に入ってくるか、次年度以降検討をお願いします。住空間を整える

4. 展開（下記を春から夏にかけてと秋から冬にかけて2回取り組む）



A【育てる野菜を決める】		
予想される子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
- 育てる野菜の種類を知る - 育てたい野菜を決める	○自分の育てたい野菜を自分で決める① ○同じ野菜を育てる仲間がいることを喜ぶ③	*育てる野菜のイメージをもてるように、野菜の本や写真や、料理の写真などを用意しておく。 ◎栽培する野菜を自分で決められるように、考える時間を充分に取り、一人一人が自分で決めることを支える保護者にも自分が育てたい野菜を決められるように保護者が方向付けないことを依頼し、友達と同じにすることのないように個別に育てたい野菜の聞き取りをする。 ◎同じ野菜を選んだ人数が多い場合は、仲間と協力して世話をしやすいように、4～5人ずつのグループに分ける。 *同じ野菜を育てる仲間がいることを喜び、その友達と一緒に野菜に必要な世話をしようと思えるように、誰がどの野菜を育てるか写真を使って掲示するを知らせる。そして、同じ野菜を育てる友達と一緒に

		に世話をすることを提案する。
--	--	----------------

B【野菜の世話をする】		
予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
・土づくりをする ・種まきや苗の植え付けをする ・水やりをする ・肥料をやる ・除草をする ・間引きやわき芽摘み、受粉などをする	○期待をもって世話をしようとする① ○同じ野菜を育てる友達と力を合わせて世話をする充実感を感じる④ ○野菜の生長に関心をもち、変化に気付いて大切に世話を続けようとする⑤ ○自分たちで世話をすることで野菜が生長し、嬉しく思う② ○友達と一緒に世話をしたり、野菜の変化を伝え合ったりすることを楽しむ③	*野菜を育てることに期待がもてるように、育てる野菜の種や苗を十分にそろえる野菜の育て方が分かって世話ができるように、育て方を調べられる本をいつでも手に取れる場所に置く。 *野菜の生長や変化を感じられるように、野菜の様子や世話をする様子の写真や子どもの気付きを、目につきやすいところに掲示する ◎仲間と一緒に育てるよさを感じられるように、同じ野菜の子どもみんなを誘って教師も一緒に作業をしたり、みんなでやったからうまいきそうだという期待を言葉にしたりする。 ◎グループの仲間意識を感じられるように、同じ野菜の仲間を看板を見ながら確かめたり、「〇〇仲間」などと呼んだりする。 ◎生長を楽しみに世話を続けられるように、野菜の変化を知らせたり、一緒に見たり、子どもの気付きに驚いたりする。 *必要な世話を進んでしようと感じられるように、ジョウロや雑草を入れるバケツなどを用意しておく。 ◎野菜の生長のために世話をしようと世話をすることで野菜が生長する喜びを感じられるように、水やりや草抜き世話をしている姿をほめが野菜の生長にとってどうよいかを言葉にしたり、周りの子どもに知らせ世話をしたことでどう変化したかを尋ねたりする。 ◎世話をしてよかったと思えるように、世話を続けてきたことと野菜の生長を結び付けて褒めたり、野菜の生長と一緒に喜んだりする。 ◎野菜の変化や生長をみんなで感じられるように、見付けた子どもに他の友達に知らせるように促したり、他の子どもたち達にも自分の育てている野菜の変化に注目させたりする。 ◎世話をしてよかったと思えるように、世話を続けてきたことと野菜の生長を結び付けて褒めたり、野菜の生長と一緒に喜んだりする。

※野菜の変化とは、芽が出る、茎が伸びる、葉が増える、茎が伸びる、花が咲く、実がなる、実が大きくなる、実が色付くなど
 ※野菜に必要な世話とは、支柱立て、わき芽**摘みかき**、間引き、追肥、など

C【必要を感じて看板を作る】		
予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
・グループの友達と一緒に撮った写真を貼る	○自分たちの知らせたいことが伝わるように絵や写真で知らせようとする育ててい	◎自分たちが育てていることを楽しんで知らせたいと思えるように、グループの友達と撮った写真と野菜の絵を貼った看板を作ることを知らせる。必要を感じて看板を作ろうと思えるように、自分の育てて

・育てる野菜の絵を描く ・でき上がった看板を見る	る野菜やメンバーが分かるようにしたいと思って看板を作ろうとする⑧ ○自分たちの作った看板が楽しくなるように絵を描くことを楽しむこんな野菜を育てたいという思いを野菜の絵で表現しようとする⑥ ○看板を見て、野菜への愛着やグループの仲間意識を感じたり、友達が育てている野菜を知ったりする看板を使って看板を置くことでの過ごしやすさを感じる⑧	いる野菜の位置や同じ野菜の仲間が分からないでいる際に、その不便さを言葉にして共感したり、どうすれば分かりやすくなるか尋ねたりする。 *育てている野菜のイメージをもてるように写真を用意しておく。 ◎野菜の収穫に期待をもって野菜の絵を描けるように、子どもの表現をほめたり、周りの友達に紹介したりする。育てたい野菜を思い描けるように、大きさや形、色、味など育てたい野菜の要素を投げかける。 ◎野菜への愛着やグループの仲間意識を感じられるように、看板を置くことで自分達だけの畑になったことを一緒に喜んだり写真を見てグループの仲間を確かめる。 ◎他の野菜の生長や友達の様子にも関心がもてるように、看板を見ながら野菜の生長について話したり、写真に写っている子どもに話を聞いたりする。 ◎看板を置くことでの過ごしやすさを感じられるように、看板があることで育てている野菜の場所や同じ野菜を育てている仲間、友達が何を育てているかが分かり、作って置いてよかったことを言葉にして思いに共感する。
---	---	---

D【収穫をして、家で食べる】		
予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
・一緒に世話をしていた友達と分け合う ・家に持って帰って食べる	○一緒に野菜を収穫することを楽しむ③ ○納得して持ち帰れるように相談して決めるようにとする④ ○収穫した季節の野菜を食べることを楽しむ⑦ ○お野菜レポートを見て友達がどのように野菜を食べたのか知る⑧	◎野菜と一緒に育てた仲間と楽しんで収穫できるように、同じ野菜を育てている仲間が集まって収穫するよう呼びかける。 ◎みんなが納得して、いつ誰が持ち帰るか決められるように、子どもたちの相談する様子を見守り、必要に応じて考えを整理したり、提案したりする。 ◎収穫した野菜を喜んで食べられるように、家庭に協力を求めて子どもが好きなメニューにしてもらったり、子どもが喜んで食べたメニューを紹介してもらったりする ◎収穫した野菜を友達がどのように食べたのか知ることができるよう、お野菜レポートを提出してもらい、掲示したり、手に取りやすいところに置いておいたりする。